

第66回車座集会意見交換内容（麻生区）

- 1 開催日時 令和6年3月1日（金） 午後3時00分から午後5時00分まで
- 2 場 所 麻生市民館大会議室
- 3 参加者等 参加者20名、傍聴者等38名 合計58名

<開会>

司会：それでは、ただいまから66回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、麻生区役所地域みまもり支援センター所長の須藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「麻生区 長寿日本一 その先へ ～白山地区から始めるつながりづくり～」と題して、地域のつながりづくりをテーマに市長と関係する参加者の皆さんで意見交換を行っていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、行政からの出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：山本奈保美麻生区長でございます。

区長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：初めに、麻生区長より本日の車座集会の開催趣旨を説明させていただきます。山本区長、お願いいたします。

<趣旨説明>

区長：皆さん、こんにちは。

本日はお忙しい中、車座集会に御参加いただきましてありがとうございます。僭越ではございますが、開会に先立ちまして、私のほうから、本日の車座集会の趣旨について簡単に御説明させていただきます。

皆さん御存知のように、昨年5月、厚生労働省が発表した全国市町村の平均寿命におきまして、麻生区が男女ともに全国1位というニュースがございました。私は昨年4月に麻生区長を拝命いたしましたが、5月にこのニュースが発表されて、その後いろいろなイベント、それから施設等に訪問させていただいた際に、皆さんがこのニュースを話題に取り上げてくださって、本当に喜んでいただいて、私自身も皆さんと一緒に喜びを共有させていただきました。その中で、皆さんからの期待と申しますか、長寿日本一のその後の期待感というんですかね、そういったものを大変感じたところでございます。

そこで、今回は車座集会のテーマを「麻生区 長寿日本一 その先へ ～白山地区から始めるつながりづくり～」という内容にさせていただきました。

このテーマを考えた理由なんですけれども、昨年区民の皆様の中で、長寿日本一というのがキーワードになったと思うんですね。日本一の次のステップをどういうふうに示していくかというのを考えたときに、単に平均寿命が長いということではなくて、高齢者の皆様が健康で住み慣れた場所で幸福感を持って生活していける地域をつくっていききたいと。そのためには、高齢者の方々が何らかの形で地域とつながっているような環境を皆さんとつくっていかねばいけないという思いが、今回のテーマ設定の

強い理由となっています。

つながりづくりの取組というのは、もう既に区内のいろいろな場所で皆さん行っていただいているかと思えますけれども、区内でも高齢化率が高い白山地区で、今までなかなか地域とつながりを持っていなかった方、あるいは地域とつながりたいというふうに思っただけでも、なかなかきっかけがなくて、つながっていない方、そういった方を対象に、地域の住民の方、それからいろいろな形で地域活動に参加されている方、それと行政と力を合わせて、つながりの場を創出していきたいということで、こういった形を今後は白山モデルというような形で展開していければと思っております。

そうすることによって、麻生区ならではの「長寿日本一 その先へ」という姿を可視化できるのではないかというふうに思っております。

本日は、地域住民の皆様、それから地域で御活躍されている方、事業者の方、本当にいろいろな方にお集まりいただいております。本日の車座集会をキックオフといたしまして、今日は皆さんと思いを共有して進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

司会：ありがとうございました。

<市長挨拶>

司会：続きまして、開会に当たり福田市長から御挨拶申し上げます。市長、お願いいたします。

市長：改めまして、こんにちは。市長の福田紀彦です。

第66回目の車座集会ということで、毎月でもないですけど、多い月は2回、3回、いろいろなテーマでやらせていただいております。今回は麻生区でのつながりづくりということですけども、皆さんどうでしょう、自分の生活圏はどのぐらい広いですかね。意外と狭いと思うんですよ。日常生活をしていて、僕もそうですけど、今住んでいるところは宮前区犬蔵というところですが、犬蔵の町会周辺ぐらいしか歩いてなくて、駅と家と、あと子どもの学校と、この辺りぐらいしか動いていない。

今、区長からお話があったように、高齢化率が麻生区が市内で一番高い24.9%という形になっていきますけれども、その数字はあまり意味をなさないというか。川崎市全体ではまだ21%にっていないんです。21%を超えると超高齢社会と言いますが、そこにはまだ到達していない、神奈川県内唯一の自治体です。うん、だから何？と。

それよりももう少し、自分たちの生活圏の中で見ないと実態がよく分からない。21%、まだ若いねといっても、自分の土地、住んでいるところはどうか、もう少し地に足がついた議論をしていかないと、何かふわっとした議論になっちゃうよねというふうに思うので、区長が今回は白山でやってみようということなので、とてもわくわくしています。

僕は麻生区で育ったので、小学校のときにグリーンタウンが建ったときのことをすごく覚えています。きらきらでなんかすごくすてきなまちができて、マンションの中に、あの当時はサミットができて、全国ニュースになって憧れのまちというふうな。きらびやかに僕には見えていました。

私の実家もそうですけども、建物も古くなってきますし、そのお住まいの方も年齢を重ねていくということで、この中でどうやってコミュニティをちゃんとつくっていくかということが、これから幸せに住み続けられるまちになるかということだと思います。

今日は、いろいろな方がいらっしゃるのすごく面白い議論になるのではないかと楽しみにしていますが、まずはスタートということなので、これからどんどんつながって、白山ができたものが横展開で、麻生区でどんどん広がっていくというふうな形になることをすごく期待しております。

短い時間ですけども、どうぞよろしく願いいたします。

司会：市長、ありがとうございました。

<参加者紹介>

司会：本日の参加者についてでございますが、白山地区にお住まいの皆様、民生委員児童委員の皆様の方、今後、白山地区でのつながりづくりに協力していただける企業、大学関係者、あさお希望のシナリオ実行委員会、高齢者の相談機関の皆様にお集まりいただいております。

御参加の皆様におかれましては、事前に各グループ内で自己紹介を済ませていただいております。全体での御紹介につきましては、お配りしております会場レイアウトに本日の参加者のお名前と所属を記載しておりますので、御確認いただくことで御紹介に代えさせていただきます。

<麻生区の現状と白山地区の特色>

司会：続きまして、意見交換に先立ちまして、麻生区の高齢化の状況や、本日の議論のモデルとさせていただく白山地区の特色などについて簡単に説明させていただきます。

初めに、麻生区の高齢化の状況でございますが、65歳以上の人口が総人口に占める割合である高齢化率が24.9%になっており、市内で最も高い状況でございます。先ほどお話もありましたが、昨年5月に厚生労働省が公表しました、全国の平均寿命におきまして、麻生区が男女ともに日本一となりました。

麻生区役所では、長寿日本一をきっかけとして、健康寿命の延伸に向けた取組を進めているところでございますが、健康寿命に大きな影響を与えるものとして、人と人とのつながりが大きいとの考え方が示されています。御高齢の方も健康で、住み慣れた地域の中で安心して暮らし続けるためには、地域の中でのつながりづくりを強化していくことが重要ではないかと考えています。

そこで本日は、地域の中でのつながりづくりについて、白山地区をモデルに具体的な意見交換を進めてまいりたいと考えていますので、ここで白山地区の特色などについて、会場の皆様と共有したいと思います。

白山地区は、新ゆりグリーンタウンと呼ばれ、白山1丁目から白山5丁目に所在する大規模マンション街です。新百合ヶ丘駅へのバス路線が整備され、複数のバス停留所が設けられており、新百合ヶ丘駅へのアクセスがよく、また敷地内には公園や神社もあり、緑豊かな環境が特徴と言えます。

1980年代に街区ごとに順次入居が始まりましたので、入居当時30歳代であった住民の皆さんは現在70歳代後半から80歳代になりますので、区内でも高齢化率が高く、世帯構成も家族世帯から単身または2人世帯へと移行しています。現在は、人口が約5,000人、世帯数が約2,500世帯という状況でございます。

本日のテーマはつながりづくりです。コロナ禍を経て、地域のつながりが希薄になったという声もよく聞きます。また、どこに行けばいいかわからない、人付き合いが少し苦手、今のところ何も困っていないなど様々な理由から地域の人々とのつながりを持っていない高齢者の方がいらっしゃると思います。このように考えておられる方も、何らかのきっかけがあれば地域の人々とつながることができるのではないのでしょうか。

本日の車座集会では、緑豊かな環境にある新ゆりグリーンタウンの地域の資源も活用しながら、白山地区をモデルに、お住まいの皆様が健康で生き生きとした生活が続けられるよう、つながりづくりについて意見交換を行ってまいります。

続きまして、本日の進め方について御説明いたします。

初めに、白山地区で活動されている3つの団体の皆様から活動の紹介をしていただき、日頃の活動を

通じて感じている課題、特につながりづくりに関する課題をお話いただきたいと思います。

その後、3つのグループに分かれて、白山地区のつながりづくりについてアイデアを出し合いながら、具体的な案を練っていただきます。

それぞれの案が形になったところで、会場全体で共有し、さらによいものとなるよう、市長と参加者の皆さんで意見を出し合って内容を深めていくという流れでございます。

本日の車座集会で生まれたアイデアにつきましては、5月または6月に白山地区圏域会議を開催し、改めて地域の関係者の皆様とアイデアの具体化に向けた取組を検討し、アイデアの実践につなげていきたいと考えております。

また、白山地区で生まれた取組については、今後、白山地区と同様に高齢化が進展する他の地区でのつながりづくりにも参考にさせていただき、新たな取組を創出していきたいと考えています。

それでは、ここからの進行は福田市長にお願いしたいと思います。

<事例発表>

市長：はい、よろしくお願いします。

それでは、白山地区で活動されている3つの団体の皆様から活動について御紹介をしていただきます。日頃感じている白山地区の課題ですとか、特につながりについてお話しいただきたいと思います。

それでは、初めに白山まちづくり協議会の会長、伊東さんからよろしくお願いします。

伊東さん：御紹介いただきました白山まちづくり協議会の伊東です。よろしくお願いします。

今日、発表をお願いしますという依頼を受けたときに、私たちは活動が今年で17年目に入るので昨年までで16年ですから、16年の活動を5分間でやるというのは至難の業だなと。一体どうやって説明したらいいのかなと考えた結果、一度ここに全部レビューを書きましたけれども、大分すっ飛ばして、後の議論の中で詳しくお話をさせていただければと思います。

先ほど簡単に紹介がありましたように、グリーントウンの成り立ちというのは、都市計画法上の一団地方式という特別な法律でもって造成された団地でありまして、長尾団地というのが今、川崎市の中にありましたけれども、あそこも都計地団地で、今は解消されていますので、都計地団地方式で残っているというのはこの白山だけなんです。これはいろんな意味でこれから問題になってくる部分でもあります。

それでは、まちづくり協議会、どんな活動をしてきたか、そのきっかけについては皆さんのお手元にありますけれども、2006年11月に川崎市が少子高齢化で子どもたちが少なくなっている中で、その中にあった白山小学校と中学校が王禅寺の小学校、中学校に統合するという話が持ち上がったんですね。そこで私たちがはっと気がついたのは、小学校、中学校というのは、従来地域の中ではお祭りをしたり、スポーツを楽しんだり、文化活動をしたり、言わば交流の場所でありまして、地域の中では1番中核だった場所でもあります。それがいきなりなくなってしまうというのは一体どういうことなんだと、そういう心配をした自治会とか、スポーツ団体の有志が集まって、跡地について考える会をつくってみましょうというのが、白山まちづくり協議会の発足理由であります。それで2008年から川崎市と跡地問題について協議を始めました。

この協議の結果、3つの施設とありますけれども、3.5ぐらいでしょうか。日本映画大学、それから総合児童福祉施設の白山愛児園、児童養護を中心とした施設ですけれども、それから、まさにぴったりの特別養護老人ホームラスール麻生、それから白山子ども図書館ほんの森、これは珍しいんですけども、この3つと1つの図書館ができました。

まちづくりの活動というのは跡地をどうするかということが主眼だったんですが、1番初めに書いて

ありますように、つながりの視点からこの活動をどう見るかということで、1番初めに挙げたいのは日本映画大学です。これが、私たちの地域に1番大きなインパクトを与えたのではないかなと思います。

先日行いました地域上映会、これは日本映画大学が開学以来ずっと続けているんですけども、今回10回目です。コロナの中断期間がありましたので10回目になっていますけれども、この間参加した人たちは約60人いました。その中で参加人数のアンケートで集計してみましたら、60歳代から90歳代が90%なんですね。アンケートの結果、参加するきっかけができる、1人でも参加が可能、ふだん着で行ける、交通費ゼロ、無料で楽しめる、まさに場の提供をしている。そういう集まりでございました。

あと、撮影に協力とか公開講座とか、卒業式もまたユニークで、豚汁を私たちが提供しておりますけれども、一般の地域の方も参加可能ということで、若い学生たちと交流ができるという、地域の人たちも参加していることがあります。

次に、愛児園ですけども、愛児園祭り、これは昨年の秋にやりましたけど、来園者が500人を超えました。タケノコ掘りというのを注目していますけれども、今日、関野さんが来られていますけれども、アカシア街区とのAGS主催行事で、お世話するアカシア街区の人たちが生き生きとして相手をしている。これはなぜかと。愛児園の職員はちょうど自分の子どもと同じぐらい。毎年50人ぐらいがタケノコ掘りに行くんですね。そのお世話をする姿を見ていると、本当によかったかなと思いますね。

最後に、子ども図書館ほんの森、これは童心に返るといって、今、若い人たちが1番必要としているのではないかなと思う。昔に返ってみるといって。子どもだけの行事でもありますけれども、本の読み聞かせをやっておりますし、他人の子どもの面倒を見る機会もありますので、ぜひこれは続けてみたいと思っています。

映画大学、愛児園、ほんの森など、これらの施設はこの白山地域になかったんですね。それが地域に溶け込む努力と、地域がそれを受け入れる努力をしてまいりました。その結果がこの高齢化が進む白山地区に、今かいつまんでお話ししたような様々な効果をもたらしているのではないかなというふうに考えております。

先ほど、福田市長の冒頭の御挨拶にもありましたきらきら輝いているグリーンタウンですね。今、しぼんできているんじゃないかなというふうに私は考えております。

川崎市がやっております統計数字でもっていろいろ出ているんですけども、ピークが8,000人いました。今は5,000人と先ほど紹介がありましたけれども、約3,000人減っているということは、地方の1つの村とかまちが消えるような人数が減っているということですね。

中でも深刻なのは、中核的な人口ですね。生産年齢人口と言いますけれども、15歳から64歳までですけども、この数が半減以下になっているんです。そうすると、地域経済に与える影響というのは大きいですから、さっき市長さんも言われていましたけれども、マーケットはサミットというのがありますが、それがゆりストアになって、今は西友になっています。これは廉価になっている店を出している。要するに、購買力がなくなっている。

それからもう1つ深刻なのは、今度の8月に中央労働金庫、銀行業務をしているところが撤退します。そうなってくると、地域がどんどん寂しくなってくると。都市計画法上の一団地方式という話を1番初めにいたしましたけど、これは行政が絡まないと新しいまちづくりができない仕組みになっているんですね。そういう意味で、これからまち全体が支え合うような仕組みをどうやってつくっていくかという展望を持ちながら、この支え、つながり合いを考えていくのが1つの道筋ではないかなと思っています。

司会：続いて、白山地区を担当する柿生アルナ園地域包括支援センターのセンター長の玉野さん、よろしくお願いたします。

玉野さん：よろしくお願ひします。柿生アルナ園地域包括センターでセンター長をしております玉野朋美と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

まずは、地域包括支援センターの活動内容から御説明をさせていただきます。

地域包括支援センターとは、高齢者の皆様が住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、川崎市から委託された法人が設置、運営する公的な相談窓口になっております。川崎市内には49か所、麻生区内には7か所あり、各包括の担当エリアは全て決まっております。なお、白山地区については、私ども柿生アルナ園地域包括支援センターが担当させていただいております。そのほかの担当地区については、スライドのとおりになります。

では、実際の地域包括支援センターの役割について御説明をさせていただきます。

地域包括支援センターは、一言で言うと、65歳以上の方やその方を介護されていらっしゃる方の総合相談の窓口になっています。例えば、最近歩くのが大変になってきた、何か改善方法はないかなですか、独り暮らしの親近者の方を最近見かけなくなってきた、何か困っていることがないだろうかといった相談に日々対応しております。

そのほかにも、福祉・医療・介護全般の相談窓口、権利を守る権利擁護、介護予防ケアマネジメント業務といたしまして、要支援の方のケアマネジメント業務、包括的・継続的・ケアマネジメント支援事業、地域のネットワークづくりの支援や地域活動支援などを行っています。昨年度は、パルシステムさんのところに「みんなでゆっくりCAFE」という地域支援の場所を造る立ち上げのお手伝いをさせていただきました。

では、具体的に白山地区新ゆりグリーンタウンの地域について御説明をさせていただきます。

新ゆりグリーンタウンは、複数の街区から成り立っている総数約2,400戸の大規模マンション群になっています。新百合ヶ丘のアクセスや地域の中核医療機関などのアクセスもよく、グリーンタウン内でスーパーがあったりですとか、今衰退してしまったというお話もありましたけれども、銀行、病院、学校、保育園など生活に必要なものがそろってまして、多くの住民の方々が生活をされています。ただ、1番最初にさつき街区が完成してから43年が経過し、現在では、私どもが担当させていただくエリアでも1番高い高齢化率を誇る地域へと変化をしてくしております。

これは少し古いデータにはなりますが、新ゆりグリーンタウンに住む方の高齢化率や高齢者人口、介護保険の認定率をまとめた表になっております。最初にできたさつき街区が白山1丁目になります。現在では、高齢化率55.8%、介護保険の認定率は11.2%と、非常にここ最近増加傾向になっております。私どものセンターでの平均の高齢化率は29.1%ですので、いかに高齢化率が高い地区になっているのかというのがお分かりいただけるかと思ひます。また、同時に、高齢化率の高さに比べて、介護保険の認定者率というのは非常に低くなっているということもお分かりいただけるかと思ひます。

白山地区の現状などを踏まえて、ここから私たち地域包括支援センターが感じていることについては、広大な敷地の多くにいろいろな集会所があり、地域活動が活発に行われていること、地域住民の方の健康意識が高いこと、自治会、民生委員、ボランティア団体といった組織がしっかりとしており、地域包括支援センターとの情報連携を図ってくださっていること、こういったことが成果に表れているのではないかというふうに感じています。

その一方で、まだまだ課題だと感じていることも多くございます。

地域のつながりが希薄な方から当センターに直接来る相談の場合は、状態がかなり悪化してから相談に来るケースが多いということです。これは恐らく地域の住民の方々の御自分で何とかしようという意識が強いこと、ほかの方に頼ることをぎりぎりまで我慢される方が多いこと、また、マンションの構造上、廊下で全てつながっている構造ではないということから、なかなか住んでいる人の状態が把握

しにくいといった課題があるのではないかと考えています。これらのことを踏まえていくと、今後皆様が安心して暮らしを継続するには、つながりということがキーワードになっているのではないかと考えています。

では、地域のつながりが希薄な住民の皆様が、どのようにしたら元気に地域での生活が継続できるのかについて、この車座集会を通し、皆様と一緒に考えていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：はい、ありがとうございました。

最後に、アカシアお助け隊の佐間田さん、よろしくお願いいたします。

佐間田さん：初めまして。アカシアお助け隊の佐間田です。よろしくお願いいたします。

アカシアお助け隊とは、白山地区の新ゆりグリーンタウンアカシアの1番外れのほうにあるんですね。発足は2019年の1月、現在32名のボランティアが活動しております。お助け隊は、自治会の下部組織と位置づけられ、自治会や民生委員さんとも連携して活動しております。

お助け隊の狙いは、アカシア街区の皆さんが安心・安全かつ快適な生活を継続していくために、日常生活の中で「困ったこと」、「手伝ってほしいこと」などのしてほしいことに対して、隣人や近隣がお手伝いができる、優しい支え合いのある「まちづくり」を目指しております。

活動内容は、お話し相手、分別ごみ・粗大ごみ出し、荷物の搬送、病院の付添い等。

困り事の支援ですが、支援の幅も拡大してきております。子育て支援、お助けミュージアム開催、住民とともに学ぶ場として、「公開研修会」も開催しております。

主な活動内容ですけれども、子育て支援があります。きっかけは、お母様から、最近引っ越してきて初産で双子が生まれた、毎日、夕方6時頃になると双子が一斉に泣き出し、なかなか泣きやまない、どうしたらいいのか分からない、育児経験のある方に来て見てほしいと要請を受けて訪問いたしました。母親の話から、大変さが理解できました。育児を孤立化してはいけない、母親の育児を支えようと、子育てベテランママ、ばあばたちですね、9名が交代で夕方の1時間お手伝いに入ることになりました。今も継続中です。

次に、お助けミュージアムについてですが、これは作品展示会です。アカシア内で、物を作っているんだ、皆さんに見てほしいんだ、手作り品の展示場所があればねということによく聞きます。この言葉を受けて、「皆さんの大切にしている作品をお披露目しませんか」とチラシで呼びかけをしたところ、13名が応募してきました。

その当事者たちは、6回の話し合いを経て、展示品140点の展示方法、ポスターやチラシ作成、当日の運営を担当しまして、手作りの展示会を開催するに至りました。このとき、お助け隊は、コミュニケーションが生まれる場をつくること、それから、ふだん褒められることが少ない大人たちの褒めたたえ合える場所づくりをすることとし、当日の会場設定にはお助け隊員がお手伝いをし、場を盛り上げました。

次は、展示会の様子です。来場者は80名おりました。来場のきっかけは、展示会を当事者から聞いた、近所の友人から誘いを受けた、チラシを見たから来ましたよと、多くは口コミで来場されております。来場者の感想は、ここにあるとおり、コミュニケーションが取れて楽しかった、次回も楽しみですとか、こんなにも優れた才能の持ち主がたくさんいるすごい街区だねというようなことを受けて、来年も開催しようという機運が盛り上がりつつあります。

次です。公開研修会についてですが、住民の要望を取り入れて年2、3回開催しております。お助け隊の質の向上と住民の情報を得る学習の場として、一般公開の研修をしています。今年度のテーマは、

自分の健康は自分で守る観点から健康づくり関連、ビル火災の教訓を生かして集合住宅における防災、高齢者の不慮の事故に備えて応急手当、1次救急。このときの講師は、川崎市の健康福祉局、歯科衛生士さん、麻生区役所の地域支援課、保健師さん、区役所の危機管理担当者の消防士さん、それから地域包括支援センターのアルナ園さんなどの協力を得て講習会をしています。

お助け隊活動による成果ですが、子育て支援は、子育て支援の仕組みができたこと、子育て支援者をお手伝いすることで幸せの満足感が得られました、育児中の親からは、子育てに自信を持つことができたというコメントをいただいています。

お助けミュージアムは、展示会を通して当事者同士でコミュニケーションが生まれ、来場者から褒められることによって、次に向けての意欲が高まり、持続可能な仕組みづくりに成功したこと。

公開講座は、暮らしに役立つ情報提供、学習の場を持つことで、個人の健康づくり、日常生活の中で備えることに役立ち、長寿延伸に貢献できたことです。

右の図は依頼件数を示したのですが、件数はコロナの影響を受けてはいますが、近年はリピーターも増えて上昇中です。

以上、お助け隊活動は地域の「つながり」を育んできていると思います。

ただ、一方、課題ですが、隊員の年齢が高くなり、若い人たちの参加が少ないことです。若者世代とどう取り組むかが課題となっております。優しい支え合いができるまちづくりを目指しているお助け隊活動には、住民同士のつながりは不可欠です。今後も、活動を通して構築・発展させていきたいと思えます。

御清聴ありがとうございました。以上です。

市長：お三方、本当にありがとうございました。素晴らしい取組をしていただいております。

白山まちづくり協議会の伊東会長からお話いただいたのは、小・中の廃校から統合が始まって、そのピンチを、いろいろな施設ができたけれども、ハードだけで終わらせず、ちゃんとソフトで地域とのつながりをうまくつくっているというのは感激しました。ありがとうございます。

今のアカシアお助け隊も、素晴らしいですね。久しく褒められていない大人たちが褒めたたえる場所をつくるのは、大事ですよ。褒められることは、あまりないですね。ですから、皆さんの才能を褒めたたえて、お互いに褒め合うという、そういうすてきな場所をつくっていただいているという、素晴らしい活動をしていただいています。

アルナ園の玉野さんからお話があったように、やっぱり課題というふうなものはみんな共通してあると思いました。非常に自立されている方が多いので、御自身で何とかしようと頑張っちゃうと、だから何とか自分で解決されちゃうという、そういう意識の高い方なただけけれども、実際には困ったときになかなか「助けて」とか、あるいはつながりづくりというのが難しくなっちゃう。本当に困ったときには問題がすごく大きくなっているということになっていくので、なるべく本当に元気なうちからつながりをつくっておくということがすごく大事だと。市民活動も盛んな地域ですし、健康意識も高いということなただけけれども、本当につながっていない人たちにどうつながってもらうかということがやっぱり大事だということを改めて感じました。

実は大分、10分ぐらい押してしまして、皆さんからもっと感想を聞こうかなと思ったんですけど、ちょっと時間が押しているんで、最後、佐間田さんから若い人の参加が欲しいなというふうに言われていたので、今日来ている中で1番若い、学生さんですね、飯田さん、どうでしょう。佐間田さんへの答えでなくてもいいんですけど、学生さんが参加しているので、若い人たちの力も欲しいという話もあったので、ちょっと感想をいただいてもいいですか。

飯田さん：田園調布学園大学、和ゼミ4年の飯田と申します。

今のお三方のお話を聞いて、私も数か月前から実家を出て暮らしているんですけども、実家にいるときよりも、あまり若者と自分で言うのもあれなんですけれど地域とのつながりというのは本当に薄くて、そこで若者が地域に出るという、なかなか意識を持ってないところだと思うので、地区に大学があるとか、近くにも田園調布学園大学があるということで、地域で住む方以外の学生の方を巻き込める仕組みをどのようにつくっていいのかというのを、私も自分事のように考えていけたらなと思いました。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

つながりたいですか。

飯田さん：今回、集合住宅のお話なんですけれども、私も中学生まではずっと団地に住んでいて、そこでは自分の家族以外との地域のつながりが深くあったんですけど、そこから別のところに引っ越してから、こんなにも地域がつながらないんだということを実感したところがあって、個人的にはすごくそこを大事に思っているところはあるんですけども、それは人それぞれで、若い人たちもちょっとつながるのは面倒くさいなという人とかも中にはたくさんいるので、やはりネットが普及してきたりして、いろいろなつながり方ができているこの世の中で、どのようにつくっていいのかというのはすごく難しいなと思っています。

市長：ありがとうございます。

発表者からは、つながっていない、高齢者のことのような話だったような気がするんですけど、実はつながっていないのは若者もつながっていないということですよ、飯田さん。ありがとうございます。

ですから、困っているのは高齢者だけではないという、世代にかかわらずということだと思います。いいヒントをいただきました。ありがとうございました。

それでは、続いては、グループに分かれてつながりづくりについて考えていきたいと思います。

ワークショップの進め方については、地域みまもり支援センターから説明をお願いします。

司会：ワークショップにつきましては、A、B、Cの3グループに分かれて行います。各グループに地域みまもり支援センターの職員がファシリテーターとして参加します。45分間を目安に、グループのアイデアをまとめていただきます。

傍聴者、関係者席の皆様につきましても、ワークショップが行われている間に、受付でお渡ししましたアイデアシートの記入に御協力をお願いします。車座集会終了後、アンケートと一緒に御提出ください。傍聴者、関係者の皆様の御意見も今後の取組の参考にさせていただきます。

説明は以上です。

市長：それでは、もう作業を始めていただきたいんですけども、13、4分押していますが、どうでしょう、16時15分までの予定だったんですけど、ちょっと延びても大丈夫でしょうか。16時25分までという形にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

私と区長も時々皆さんのテーブルに座らせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(ワークショップ中)

<アイデア発表・意見交換>

市長：それでは、発表していただきたいと思います。A、B、Cというふうな形で行きたいと思います。よろしいでしょうか。

では、Aグループ、玉野さんからですね。発表をお願いいたします。

玉野さん：Aグループ、発表をさせていただきます。

意見がたくさん出ましたので、私の情報整理が追いついていなかったら申し訳ありません。

地域にはリタイアをしてやるのがなくなったという方もたくさんいらっしゃって、そういった中では社会貢献の意識を持ちたいという人は多いのではないかという御意見が出ておりました。御自身のスキルを生かしたり、こんなことだったら手伝ってみたいというようなことをマッチングできたりすればもっといろいろなことができるのではないかというお話になっています。

活動としては、参加者が主役になれる活動を何かできればいいのかなというお話が出ました。それと、せっかく地域交流スペースだとか、こども文化センター、日本映画大学さんという地域資源がたくさんありますので、そういったところを使いながら今ある活動に引き入れていくきっかけをつくって、いろいろな方たちが門戸を広げるということですかね、そういったことができればいいのではないかというような話になりました。

市長：ありがとうございました。

1つ1つじゃなくて、1回、B、Cも発表していただきます。

じゃあ、次、Bチーム、お願いします。

Bチーム、発表者はどなたでしょう。安岡さんですね、お願いします。

安岡さん：Bチームです。よろしくお願いします。

うちのグループでは、実現可能になるかもしれない楽しいイベントを考えてみました。それは、スタンプラリーというものなんですけれども、各街区を巡り歩くということで、元気な方はもちろん、介護が必要な方も、あと、お子さんから高齢の方まで誰でも参加できるイベントではないかと、皆さん、案を出し合って考えました。

各街区の横のつながりがあまりないというお話もお聞きしましたので、このスタンプラリーで各街区を巡り歩くことで、それぞれの地域のよいところとか楽しい場所を発見できて、あと、運動になって、皆さん健康意識が高まるのではないかと、もちろん地域の方々の交流が広がって深まるのではないかとということでお話が出ました。

スタンプラリーをする中で立ち寄る場所の案としましては、お茶のセミナー、譲り合いマーケット、健康チェックができる場所、体の不自由な方も参加できるようにイーバックチェア体験という案が出ました。このイーバックチェアというのは、小さな力で100キロの方でも階段を下ろすことができるという道具だそうですので、これも面白いと思いました。

あと、綿あめをただで食べられるという場所があると楽しいのではないかとということで、男性はおしゃべりの輪の中に入るのが苦手なので、綿あめがあると男性でも小さなお子様でもみんなが楽しめるという、そういうお話も出ました。

課題としましては、散歩道を整備するという、それからこのスタンプラリー、この楽しいイベントの周知をどういうふうにするかという仕組みづくり、それから各街区の情報の横のつながりをつくるという、それも大事な課題となってくるのではないかとということです。1度に、1日でこの楽しいポイントを回ることはできないので、このイベントを何回か開催して、ゆっくりと皆さんで時間をかけて楽

しんでいけたらということでした。

イベントに参加できなくてどうしても閉じ籠りがちな人があるとは思いますが、このイベントの中で参加してくださった方々の中で、あそこの街区の誰々さん、具合が悪いらしいよとか、もしそういうお話があったら、私、生活支援コーディネーターをしているんですけども、個人的にアプローチして閉じ籠りがちな方のサポートにつなげられたらいいなと思ひまして、このように考えてみました。ちょっと駆け足でしたけれども、Bグループはこんな感じです。ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。すばらしい内容です。

最後は、Cグループ。仲田さん、お願いします。

仲田さん：よろしくお願いします。

Cグループですけれども、アイデアとしてもうすばらしい活動を皆さんされておまして、まずは少子高齢化、若い人とつなげるアカシア山学校というふうに、タケノコ掘り、バーベキュー、そうめん流しなど、若い親御さんとの連携を取って子どもを通して顔見知りになる。あとは、お助け隊個別の支援、他の街区との情報交換、トーク会、スマホ教室、立ち寄れる箇所、カフェ。

人を動かすアイデアとしては、独り暮らしを1人にさせない、必要なときは登録者に全メールをして支援につなげる。ミュージアム、作品展示の中でおしゃべりから生まれる。そして、思いついたら声かけ。参加者全員楽しめるもの、駄目なら別物で生かし楽しいまちづくりをしていきたい。若い世代が得意なスマホで大学生がお手伝い、世代間交流、人材育成。

その中で一番やはり盛り上がったお話はスマホ教室で、皆さん興味があるということで、大学生から若い世代が皆さんにつなげて横のつながりを持たせたいという形でした。

ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

全然時間が足りないなという感じでしたね。皆さん、思いも熱量もすごくあったのでとてもとても足りなかったと思いますけれども、すばらしくまとめていただいたと思います。

ちょっと感想を僕から言わせていただきたいと思いますが、Aグループ、いろいろな話が出ていましたね。ここには映画大学さんとヤクルトさんが加わっていただいているということで、地域で上映会もできますよと、コロナ禍で少し途絶えていたけれども出前でやってくれるとか、あるいはヤクルトさんの既存の健康教室というんですか、腸の話をしながらヤクルトも無料で飲めるみたいな話がありましたね。よかったです。何かそういうものを今までの取組なんかとうまく重ね合わせると、いいのではないかなという話がありました。

ここ、丸山さんのアイデアで、僕もちょっと聞いていて面白かったんですけど、生演奏でラジオ体操というのも面白いなと。確かに楽器をやる人は結構いるのではないかなと思ったので。

それと、富士本さんがいいことを言われるなと思ったんです。いろいろな活動をすごくみんな頑張っているというふうによく見えるんだけど、でも、そこに参加しているのは一部じゃないかということがありました。

僕もやっぱりそうだと思います。麻生区、すごくいろいろな市民活動が盛んです。だけど、そこに関わっている人たちも、参加している人たちもごく一部ということなので、そういった意味ではまだまだものすごい対象者がいる、その人たちをしっかりとどこかでつなげるという。だから、いろいろなメニューの組合せで何かヒットするものがあるだろうと、いろいろな議論が沸いていてよかったですね。ありがとうございました。

後で皆さんから少しコメントを、それぞれのグループでいただきたいと思います。

Bグループも面白かったですね。スタンプラリー。スタンプラリーとは全然思わなかったです。事前の情報では、お茶会をしたいという方が結構多く書かれていたのでお茶会なのかなと思っていたら、何とスタンプラリーだったのですごく面白かったんですけども、ゆっくりと何回でもできるというスタンプラリーだということでありました。

その中で、立ち寄る先ではお茶のセミナーだとか、譲り合いマーケット、面白いアイデアですね。とにかく誰でも参加できるという非常にインクルーシブな取組のスタンプラリーだから、高齢者でも少し弱っている方でも子どもさんでも参加できるという。何となくスタンプラリーというと親子連れというイメージがありますが、そうじゃなくて全世代対象のスタンプラリーと、誰にでも優しいスタンプラリーというものを持ってこられて、すごくいいアイデアだなと思いました。

綿あめの話というのは、そこで聞いていて、突然出てきて何、何と思ったんですけど、綿あめの機械が高いんだけど材料は安いと。どこかで綿あめを作る機械があったよということがありましたよね。そういうお話もあったので、どこからか借りてくるとか、シェアをすると意外と面白いかもかもしれませんね。男性はおしゃべりが苦手だというふうにおっしゃっていましたが、綿あめであればおしゃべりできるという、何でもいいですよ、きっかけは。という形で、綿あめは子どもの食べ物かと思いきや、実はそうではなかったというすごい発見がありました。ありがとうございました。

Cグループ、いっぱいありましたね。すごくいっぱいアイデアが出てきましたけれども、何となく食べ物が多かったような気がします、タケノコの話だとか。タケノコは、今掘っているんですか。ありがとうございます。既にやっているけれども、そういうようなこと。山の学校、子ども向けで、これもやっておられる。ありがとうございます。

でも、1番盛り上がり過ぎて最後に落ち着いたのがスマホ教室ということで、これは飯田さんがいるからということもあるんですかね。若い人と多世代でつながると、若い人と比較的年配の人たちがうまくつながっていくツールとして、スマホというのは非常にいいのではないかというお話だったと思います。

人材育成とかということもありましたけれど、結構どのテーブルでも多才な人が多いので、そこはみんな引き出し合うということがすごく大事だよねというのがこの場でもあったと思います。

それと、面白いと思ったのは、夜のデイサービスという、何、それというふうな感じでしたけれど、ちょっと飲みながら、そして福祉的な要素になると、マージャンだとかパチンコの話とかはしちゃいけない雰囲気になるけれど、いいじゃないかというふうにおっしゃってましたよね。いいと思います。何かそういうのは、楽しいですよ。みんながわくわく、どきどきするという、何歳だろうが関係ないというのは、綿あめの逆バージョンでいいと思いますね。ありがとうございます。

すばらしい発表をありがとうございました。

今聞いていただいた中でもいろいろな主体の方がいらっしゃると、いろいろな結びつきができるなど。映画大学の取組みたいなものはどこの地区でもできるだろうし、今出てきたアイデアをつなぎ合わせてみて、スマホ教室もヤクルトさんと一緒にやったら面白いかもしれないとか、スタンプラリーをやりながら綿あめが出てきてもいいですし、健康教室があってもいいし、生演奏のラジオ体操もあってもいいしという、そういうきっかけみたいなのが、意外といろいろなところで組合せ方によって、パターンは何百通りもできてくるのではないかということをとっても感じさせていただきました。

皆さんからも、今日、A・B・Cグループの議論をしていてちょっと言いたい、あるいは聞きたいという話がありましたか。どなたでも結構ですが、どうでしょう。

橋本さん、いかがですか、いきなり当てちゃってあれですけど。何かほかのグループで話し合われたこと、これはいいアイデアだとか、あるいは今まで議論してきた内容で補足したいとか意見があったらぜひコメントをいただければと思いますが、いかがでしょうか。

橋本さん：こちらのグループの感想ということですか。

市長：御自身のところでもいいですし、他のグループに聞きたいでもコメントでも感想でも何でも結構です。

橋本さん：昨年の9月の車座集会の資料を拝見したんですけれど、川崎市民の高齢者6人に1人が認知症だというデータを拝見しました。そうすると、人生100年時代にどんどん行くときに、和田秀樹先生も60歳代では40人に1人、80歳代、年を重ねると3人に1人が認知症になるというふうにならなくていいかと思うんですけど、そうすると本当に100歳まで長生きをしても認知症の人ばかりになっちゃうんじゃないかとすごく心配するわけです。おまえが心配してどうするんだと言われるかもしれないけれど。

そこでさっき出たのは、規則正しい生活をするだけじゃなくてやったことがないことをやるとか、見たことがないものを見るか、チャレンジしてみるとか。マージャンだってパチンコだってある先生もいいと言っていますから、そういうのもあるねという話をしたんです。

だから、ちょっと発想を切り替えて、麻生区のモデルとして突拍子もないようだけれども、何か面白いことはないかというので、先ほど、飲めない人も飲める人も何でも酒を持ってディスコナイトでもやったらどうだというような話になったということで。ちょっと説明だけ。すみません。

市長：なるほど。ありがとうございます。

結構、認知症カフェは今市内でもすごく増えてきていまして、麻生区でも、今日いらっしゃるパルシステムさんが認知症カフェというかそういうこともやっていますよね。ちょっとコメントをいただいてもいいですか。

神田さん：ありがとうございます。パルシステムの神田と申します。

パルシステムのセンターが麻生区王禅寺にあるのですが、月1回、いろんなテーマを掲げて、パルシステムの加入者に限らず、地域の方に無料でお越しいただいて、様々な講座だったりとか、参加者の方に先生になっていただいて、ボッチャ、スポーツをやったりとか、すごくいつも盛り上がって、飯山さんもお越しいただいているんですけれど、楽しんでいただいております。

ささやかでも、今は15人とか20人ぐらいの方に集まっていますので、本当に楽しんでいただけておりますので、今後も継続していく予定でございます。

今日もこういった場に参加させていただいて、グリーンタウンの配達でもパルシステムは行っている地区になりますが、様々な課題をしっかりと感じておりますので、何か御協力できるところがあるかと思っておりますので、引き続き、皆様どうぞよろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。

パルシステムさんの拠点はそういう地域貢献というか、つながるシステムをつくっていただいているにありがとうございます。

ヤクルトさんのヤクルトレディーは、エリアの担当者の方は2人も、白山の地元の方、すごいですね、そういうものなんですね。御紹介いただいてもいいですか。

佐々木さん：ありがとうございます。

神奈川東部ヤクルト販売の佐々木と申します。今日はありがとうございました。

そうなんです、新百合ヶ丘センターというところが白山の担当になっておりまして、王禅寺西5丁目にあるんですけれども、そこのお届けをさせていただいているヤクルトレディーは2人とも白山地区の住人です。

今回、御紹介させていただきましたヤクルトの講座ですけれども、出前授業というものをしております、大人向けのもので、きっかけづくりというか、コンテンツとして皆様にもイベントにくっつけていただいて、また新たな催しとして御利用いただければと思います、今日は御案内をさせていただきました。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

実は、川崎市で地域包括ケアシステムの会議体というのを持っているんですけれども、全市でやっているものと区でやっているものがあるんですけれど、全市でやっているところは今参加団体が110ぐらいになっているんです。

そこのところには、例えばコンビニさんとか、小田急さんとか、東電さんみたいなところとか、生活全般にわたってやっている事業者の皆さんが、みんな入ってくださっているんです。そんな人たちが持っているコンテンツみたいなものというものをどういうふうに組み合わせることができますかと、皆さん、今パルシステムさんもヤクルトさんもおっしゃっていただきましたけれども、こんなものは、私たちがやっているサービスの一環でできますというものは結構あるんですよ。それをうまく地域の中で使っていただくということができると、すごくいいなと思っています。

Aグループでも、さっき井上さんと芦澤さんで、それ、すぐに使えますということをおっしゃっていただきましたけれども、何でしたっけ、それ。何をやるとおっしゃってましたか、井上さん。

井上さん：我々がやっている日曜喫茶という、定期的に行っている座談会というか、茶話会みたいなものがあるんですが、そこに来ていただいてやってもらおうかなと。

市長：それは何をやるんですか。

井上さん：ヤクルトさんのおなか元気教室。

市長：それもいいですね。今やっていることと新しい要素を組み合わせたとのことですね。

先ほどおっしゃっていたタケノコを掘るといふような、今やっている取組プラスアルファみたいなものというふうなもの、いろいろ考えられるという話もありましたか。いかがでしょう。

関野さん：タケノコ掘りは、緑地運営協議会のグループが基本的には廃棄というか、処理しなきゃいけない、ただただ増やすわけにいかないタケノコを、最初はアイゼンさんのお子さんたちを集めて、それでもタケノコの出る数は、100、200じゃ効かないものですから、住民の方とか、それで子どもたちも一緒に。基本は市の財産ですが、市の一部の財産をみんなで頂いておりました。

市長：さっきのスタンプラリーや、スタンプラリーかはまだ分からないですけど、いいですよ。タケノコ掘りはものすごくいいコンテンツですね。大体、食べ物、飲物は人がつながるのにすごくいいコンテンツなんですよ。

どうですか。玉野さん、今まで話を聞いていて。冒頭、取組、地域の課題、白山の課題ということをしていろいろおっしゃっていただいたじゃないですか。総じて、そうだなとすごく共感する部分があるんで

すけれど、皆様のお話を聞いていて、どういうふう感じたかコメントをいただいてもいいですか。

玉野さん：つながりというのは、本当に隣の人とつながるといっただけでも1歩前進かなというふうに思っています。まずは隣の人とつながって、どんどんつながりの輪が広がっていきけるというようなものがあるのが今のお話を聞きながら、ちょっとずつつながって、そのつながりを他の団体につなげていくというような取組が今後包括としてはできるといいのかなと感じました。

市長：そうですね、ありがとうございます。

同じく発表していた伊東さん、これまでの取組を聞いておられてどうですか。

伊東さん：非常に多彩な行事とか取組が行われているんですけど、一番肝心なのはやっている人が楽しくないと長続きしない。よく我々がやっていてしんどいな、もう、まちづくりも辞めたいなと思うときがあるんですけども、じゃあ、このまちづくりを楽しくするにはどうしたらいいか、自分が楽しいことを企画すれば長続きするし、多分ほかの人にもそれが伝播していくと思うんですね。それを今回皆さんの取組で感じました。

市長：ありがとうございます。

富士本さんがコメントの中でお話しされているのを聞いたんですけど、地域貢献をしたいとか、世の中のためになりたいと思う気持ちというのは結構みんなあると。あるんだけど、どういうきっかけで、どう出したらいいのかということなんだよねというふうな話をされていたんですけど、膨らませていただいてもいいですか、その辺りを。

富士本さん：そうですね、何か社会の役に立つことでやりたいなというのは、多分リタイアされた人はみんな心のどこかにあるのではないかなと思うんですね。どう動いて、どう1歩を進めていいのかわからないといった方が多いと思うんですね。

結論からいうと、先ほど街区間の情報共有みたいなものができていないという話がありましたけれども、グリーンタウンのホームページみたいなものがないんですよ。昔ながらの掲示板で、1か月間ビラが貼ってあって、何々祭りをやります、こういうことをやるから集まりませんかとか。私は最近見ているんですけど、昔は全然見ていませんでした。

ホームページがいいのか、何がいいのかはわかりませんが、地域の中での情報インフラみたいなことがまずないと、結局、点と点の仲よしクラブみたいな形で終わっちゃうのではないかなという気がしています。

市長：なるほど、ありがとうございます。ホームページというのも確かにそうですね。

富士本さん：そういうことを川崎市でとかで、例えば協力していただくとありがたいんですけど。

市長：ありがとうございます。実は既存の川崎のイベントアプリというものがあるんです。スマホを今日お持ちの方、ぜひ川崎市のイベントアプリというものをに入れてください。そこで麻生区なら麻生区というところ、対象が、例えば子ども対象なのか、何対象なのかという、どういう系のイベントなのかといったところにチェックを入れていただきますと、それで検索して出てくるようになっています。

逆に、情報をもっとそこに入れてもらいたいんですね。ですから、実はプラットフォームはあるん

ですけれど、川崎市の私も大いに反省ですけど、知られていないということなので、ぜひそういうところに情報をどんどん出していただけたら、そしてそれが使えるねということになれば、情報を出す人もそこに入れるし、見に行く人も自分がこういうものに興味があるからということでそこでばっと出てくるというふうな形になるかなと。

グリーンタウン独自のホームページというのもいいでしょうし、イベント系で知らなかった、ソフトボール大会があるのを知らなかったとさっきおっしゃっていましたが、そういうものも入れていただくと、対象はどういう人が参加できるものですよみたいなものを検索していただく、そのプラットフォームはあるので、ぜひ皆さんもまずは見ていただきたいなと思います。

ありがとうございます。

どうでしょう、今日参加してみてもいいですか。依田さん、いかがですか。お願いします。

依田さん：依田と申します。

ここのチームはアカシア街区さんで、ものすごく多彩にもう既に取組をすごくされていたんですね。ですから、もうそこをいかに伸ばしていくかというのが1つ大きくあるかと思いました。

その中で、大学生さんがいらしたので、大学生が手伝えるといいねという話があったときに、アカシアのお助け隊で、大物を処分したりするときに力仕事があるから、学生さん、土日にボランティアをできないかしらという、すぐにこういう会話がありました。

だけど、意外に大学生と連携するのは難しいんですよ。日本映画大学さんもそうだと思うし、田園調布学園大学さんもそうなんですね。大学生も忙しくて、あと、地域とつながるときにただ働きじゃないけど、使い捨てみたいになっちゃうときが本当にあるんです。

だから、学生さんにとったら学びのある組み合わせ方、そういうのがやっぱり工夫されなきゃいけないというのは、目の前で会話を聞いていて思いました。

なので、私、希望のシナリオに参加してまして、その中間支援組織ということで、多世代でつながるというのはどうつくるのかという話が今出ています。多摩区さんは学生さんがいっぱい参加しているので、麻生区はシニア層も含めて若い人を入れて活動支援みたいな、そういう何か仕組みが麻生区にはやっぱり必要なんじゃないかなと、それをすごく勉強させていただきました。

市長：ありがとうございます。

今、多摩区の話が出ましたけど、多摩区のソーシャルデザインセンターは学生さんたちがものすごくいるんですよね。学生中心で回っているという感じなんですけれど、多摩区在住の方がそんなにいるわけではないんです。学生が学生を呼び合っていてどんどん集まってきちゃっていて、すごいなと、それが町会の皆さんとつながったりとか。来月ですか、5月のゴールデンウィークは多摩川で大きなイベントをやるんですけど、それは全部ソーシャルデザインセンターの学生さんたちが200人ぐらい集まってやるということなので。今度は、区長、4月にソーシャルデザインセンター、麻生区で立ち上がると。

区長：先ほど依田さんが話された麻生区のソーシャルデザインセンターが希望のシナリオということでずっと活動してきたんですけど、本格的に令和6年度から開設ということで、そのキックオフのイベントを4月29日に開催する予定で今募集中です。麻生区で活動している団体さんなんかも一緒に入ってもらえるので、ぜひ関心がある方はホームページで申込みができますので、御参加いただければと思います。よろしく願いいたします。

市長：意外なところで告知ができましたね。

でも、多摩区のソーシャルデザインセンターに集まっている学生さんたち、麻生区に住んでいる人たちは麻生区のほうに移ってくるという話もあるんですよ。

なので、何となく仕掛け次第という、依田さんが懸念されていたように、何となく学生さんたちがただ働きをされられたといった、これは持続不可能モデルですから、そういう意味では一緒に楽しむ、一緒につくっていくという仕掛けづくりはとても大事だなと思いました。

いよいよ残り2分というふうな形になりまして、皆様のほうで全然話し足りないことは十分に承知しておりますけれども、この辺りで閉じさせていただきたいと思いますが、冒頭に申し上げたように、今日はスタートということになりますので、年度が替わって、5月または6月ですね、またこれに引き続いてというふうな形になりますので、引き続き、ぜひ皆さん、参加をしていただきたいというふうに思います。

今日、集まっていた方は本当にごく一部ですけれども、いろいろな事業者の方もたくさんいらっしゃって、先ほど申し上げたように、その既存のサービス、無理に何かをつくり出すのではなくて、今あるものをどうやってうまく使うか、重ね合わせるかということによって、実に豊かなものがあると。そして、ここに住まわれている方たちも多彩な人たちばかりなので、それぞれの持っているいいものを引き出して、褒めて、地域の中に入れてもらうという、そういう循環をしていけば、絶対にグリーンタウンはしぼまないというふうに思います。

ぜひ、これからも一緒にいいまちづくりをやっていきたいと思っています。

区長から一言ありますか。お願いします。

区長：今日は、本当に時間が足りなく申し訳ございません。もっと話したい方も大勢いらっしゃったかと思えます。

3グループ回らせていただいて、どこのグループも街区と街区の交流があったらいいねという話がありまして、私、この車座の前に自転車で全部の街区をぐるぐる回ったんですけど、やっぱり開発の年次がずれているということで、何か1つの街区の中で完結できるようなつくりになっているのが、今となってはなかなか街区間の交流がしづらくなっているのかなというところで。先ほどBグループさんが提案されたようなスタンプラリーみたいな、ああいうものは本当に街区を超えてやれるんじゃないかなということで、本当に皆さんが出していただいたアイデアは手応えが感じられるので、ぜひ新年度になりましたら、引き続き圏域会議にも御参加いただいて、実現をさせていけるように、皆様、御協力をよろしく願いいたします。

市長：では、皆さん、今日、御参加いただいたことに心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

以上をもちまして、第66回車座集會を終了させていただきます。